

自分を支えてくれるあの歌

主幹教諭 松井 直樹

寒さが続く日常の中にも、日によっては春の予感を感じさせてくれる今日この頃です。

さて、本校では2月22日(土)24日(月)におわかれ音楽会が開催されます。本校の伝統であるおわかれ音楽会は、1年生~5年生が6年生に向けての感謝の気持ちを伝える合唱と合奏、そして、6年生が下級生に伝えたいメッセージを込めて演じるオペレッタで構成されています。毎年、お世話になった6年生、大好きな6年生に向けた気持ちを表現する1年生の歌声、「安心してください、次は私たちの番です」と責任感と緊張感の伝わる5年生の演奏、他の学年も6年生にむけた気持ちが痛いほど伝わってくる大変素晴らしい発表で、涙された保護者の方も多くいらっしゃる音楽会です。

ところで、みなさんは「自分を支えてくれる歌」をお持ちでしょうか。「自分を支えてくれる」というのは、自分が頑張っている時、ちょっと厳しい状況に置かれている時など、その歌で励まされる、元気になる、乗り越えられるという意味です。そのような歌は1曲ではなく、自分のこれまでの人生の中で環境の変化によっても増えたり、変わっていったりするでしょう。私もいくつかの歌(曲)に支えられてきました。仕事の壁にぶつかった時、マラソン大会で苦しい坂道、学級の子供たちとお別れの場面、今その時のことを思い出しても曲が心のセンサーを動かします。私は、3年前に6年生を担当させていただいた際に「君が笑ってくれるなら」を学年のテーマに据えて学年の歌「笑顔」(いきものがかり)という曲と出会いました。本校は日常的に歌に包まれた教育活動を大切にする学校なので、多くの機会に歌を歌います。子どもたちの歌声の響きに自分も声を合わせ、「よし、明日も、頑張ろう」「まず明日、頑張ってみよう」と、歌いながら明日への希望をいただいたものでした。子どもの純粋な歌声は曲の歌詞の意味をストレートに伝えてくれるので、自身の様々な出来事、思いに紐づきやすいのだと思います。今でも当時のオペレッタの主題歌「笑顔のキセキ」は私の心を支えてくれる歌です。また、同じ思いを共有した子供たち、学年部の教員と「歌」でつながれたことを今でも宝物の経験としています。

子供たちの歌ってなんて素敵なのでしょう。私は現在の立場では教務室にすることが多いので、朝の会の歌声で各教室から聞こえてくる歌声に、この歌が子どもたちを支えてくれる歌になったらいいなあと思いつつ聞いています。メロディーの響きでも、歌詞から感じ取れる意味でも、その子にとって支えられるポイントは違うかもしれませんが、そして、鼻歌に変化したり、お風呂で響きを楽しみながら歌われたり、自電車ですぐ風を切って歌われたりしながら、心の引き出しにそっとしまわれる歌になることなのでしょう。今年の音楽会も6年生のオペレッタを筆頭に皆さんの心を揺り動かし、新しい自分を支えてくれる新しい歌になるかもしれません。さあ、どんな音楽会になるのでしょうか。そんなドキドキを感じながら筆をおきたいと思います。